

「智恵子の毛布」公開

ホームズパンは手の先で始まり、最後の仕上げまで手先でやるのが特徴だ、染色も化学染料でなく天然産のものを用いるがよい。この辺にも染料源はいくらでもある。

佐藤隆房著「高村光太郎山居七年」より

# 高村光太郎とホームズパン

— 山居に見た夢 —

10.5  
mon |  
11.23  
mon  
8:30  
—16:30

会期中  
休館日はありません

高村光太郎記念館

岩手県花巻市太田第3地割85番地

入館料

一般 350円(300円) 高校生・学生 250円(200円) 小学生 150円(100円)

※( )内は20名以上の団体料金





ヤツカ

高村光太郎の遺品の中から、\*エセル・メレの色鮮やかなホームスピンの毛布が見つかりました。

本企画展では、この毛布とそれにまつわる智恵子との思い出、光太郎が住んでいた太田山口とホームスパンのかかわりを紹介します。

\*エセル・メレ Ethel M. Mairet 1872~1952

植物染色で著名なイギリスの染織工芸家



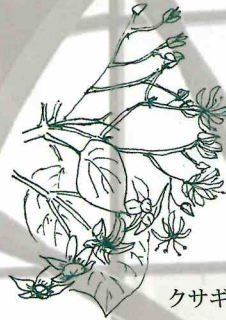
ウリハダカエデ

### 1 光太郎と智恵子とホームスパン

高村が生きた時代とともに、\*バーナード・リーチとの交友関係、智恵子と織物などのエピソードを紹介します。

\*バーナード・リーチ Bernard Leach 1887~1979

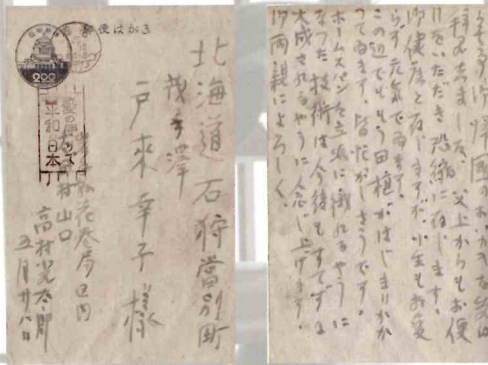
イギリスの陶芸家。民藝運動の中心人物の一人。



クサギ



智恵子愛用の毛布



高村光太郎 戸来幸子宛ハガキ

### 2 山口での試み

戦後、太田村山口に移り住んだ高村は「日本最高文化の集落」を10年計画で太田村山口に作ろうとし、「青年たちには陶芸作りをさせる、娘たちには羊を飼わせ植物染料、手紬、手織りの本格的ホームスパンを作らせる」と語ります。高村が山口に見た夢と試みについて、ホームスパンを中心に紹介します。

### 3 夢の行方

高村が愛用した獵人服の製作に関する物語や盛岡生活学校（現・盛岡スコール高等学校）との関わりなど、試みのその後について紹介します。

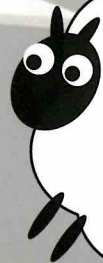


トリトマラズ

光太郎が染色として選んだ植物



ベニバナ



イギリスから伝わったホームスパン =homespun とは、「家」と「紡ぐ」の英単語からなる言葉です。日本では、羊毛を手紡ぎ、手織りした織物を指します。



紡毛



植物染色した毛糸



## 高村光太郎記念館

〒025-0037 岩手県花巻市太田第3地割 85 番地  
TEL & FAX 0198-28-3012

